

日点委通信

No. 6

1991年 2 月 1 日発行

会長就任に当たって

会長 阿 佐 博

我が国の点字も 1 世紀の歴史を持つことになりました。点字制定 100 周年の記念行事が、東京をはじめ各地で盛大に行われたことは周知のとおりです。その行事の一環として、私は点字 100 周年の小さい歴史を書きました。執筆のために各種の資料を調べながら思ったことは、点字が社会的に文字としての重味を次第に加えつつあるということでした。

一方、点字そのものの表記法も徐々に整備されてきました。特にマスあけなどは、点字使用者の自然の要求によって生まれてきた方式のように思われますし、表音的な仮名遣いも時代の要求によって確立されてきたものと思います。しかし、こうしたことを、全国的なコンセンサスを得て体系化し統一しようという運動が起こったのは、1955年に「日本点字研究会（日点研）」が発足してからのことだと思います。日点研は、組織として全国各ブロックから選出された常任委員を置くことになっていましたが、私は関東地区の常任委員として選出され、それ以来日点研及び日点委の委員として点字表記の検討にかかわってきました。思えば、日点研に関係してから35年になります。100 周年の記念行事の終了とともに、私に与えられた役割の幕も下ろされるものと思っています。

ところが、去る11月2日に開催された日点委第26回総会において、本間一夫先生が会長を辞任されることになり、その後任として私が選出されました。身に余る光栄ではありますが、責任の重大さを思い、力不足を痛感しています。しかし、副会長として木塚泰弘氏（国立特殊教育総合研究所視覚障害教育研究部長）、また事務局長に直居鉄氏（日本点字図書館副館長）が快く御就任くださいましたし、日点委委員各位の御協力も得られると思いますので、喜んで就任させていただくこととしました。

日点委の仕事としては、数年にわたって慎重審議の結果『日本点字表記法 1990年

版』の編集を終えて発行したばかりですので、第一にその周知徹底と普及に努めなければならないと思っています。特に、新表記法を教科書に採用することについても、考えていかなければならないと思います。また、数学記号や理科記号、その他コンピュータ用の点字など、体系の異なるものの相互間において、やや矛盾のあることも指摘されておりますので、それらの解決にも着手しなければなりません。

このようにして、点字の表記をより完璧なものに近づけ、その応用範囲を広げることと努めたいと考えています。それは同時に視覚障害者の職域拡大や社会進出にもつながるものと信じています。今後とも御協力・御支援のほどよろしくお願い申し上げます。また、日点委に対する御希望・御要望等も遠慮なくお寄せくださいますようお願いしつつ、簡単ながら御挨拶にかえさせていただきます。

日本点字委員会総会報告

日本点字委員会は、1990年4月29日・30日の両日、大阪市北区の山西福祉記念会館において第25回総会を、また、同年11月2日には東京都新宿区の戸山サンライズにおいて第26回総会を開催した。第25回総会では、点字制定100周年に向けて点字表記法改訂の詰めの協議を行った。また、第26回総会では、委員・役員・事務局員の改選等について協議した。

1990年は委員等の改選の年に当たり、盲教育界代表委員は全日盲研の群馬大会において、盲人社会福祉界代表委員は日盲社協の点字図書館部会並びに点字出版部会において、また学識経験委員は第26回総会に先立って開かれた両界代表委員協議会において、それぞれ次のとおり選出され1994年まで4年間の任務に当たることになった。

盲教育界代表委員は、秋元喜代子（大阪市立盲学校）、宇和野康弘（宮城県立盲学校）、金子昭（神奈川県立平塚盲学校）、金沢明二（愛知県立名古屋盲学校）、小林一弘（東京都立葛飾盲学校）、宮村健二（石川県立盲学校）、安井正明（京都府立盲学校）の7名である。

盲人社会福祉界代表委員は、岩下恭士（毎日新聞社点字毎日）、岩山光男（名古屋ライトハウス点字図書館）、加藤俊和（日本ライトハウス点字出版所）、当山啓（日本点字図書館）、高橋秀治（東京ヘレン・ケラー協会点字出版局）、西尾正二（カトリック点字図書館）、肥後信之（東京点字出版所）の7名である。

また、学識経験委員は、阿佐博（東京ヘレン・ケラー協会点字出版局）、関喜昭史

(全日盲研会長・大阪府立盲学校), 木塚泰弘 (国立特殊教育総合研究所), 直居鉄 (日本点字図書館), 永井昌彦 (花園大学), 宮田信直 (日本ライトハウス), 村谷昌弘 (日本盲人会連合) の7名である。

第26回総会において, これらの委員の互選により, 会長には阿佐博が, 副会長には木塚泰弘と閑喜昭史が, 事務局長には直居鉄がそれぞれ選出され, 事務局員には, 植村信也 (日本点字図書館), 原圭己 (筑波大学附属盲学校), 藤野克己 (岐阜訓盲協会点字図書館), 藤森昭 (東京ヘレン・ケラー協会点字出版局), 水谷吉文 (天理教点字文庫), 渡辺正一 (京都ライトハウス) の6名が会長から委嘱された。なお, あらためて本間一夫前会長 (日本点字図書館) を顧問として選任した。

日本の点字制定 100 周年記念事業終る

日本の点字制定 100 周年記念事業は, 記念式典の挙行, 点字文化展の開催, 点字小史の発行を主な事業として実施された。記念式典は, 1990年11月1日に東京・霞が関の全国社会福祉協議会ホールにおいて挙行され, 本会の本間一夫会長が「点字の過去・現在・未来」と題して記念講演を行った。点字文化展は, 1990年10月27日から11月2日まで東京・飯田橋のセントラルプラザふくしホールにおいて開催された。点字小史の発行は, 日本点字委員会が主として担当し, 阿佐博委員の執筆になる『日本の点字 100 年の歩み』を点字版・墨字版とも発行した。これらの記念事業は, 日本点字制定 100 周年記念事業実行委員会において立案・実施されたものであるが, 本会からは, 本間一夫会長, 阿佐博副会長, 下沢仁事務局長が実行委員として参画した。

日本点字委員会では, これらの記念事業に加えて, 『日本点字表記法 1990年版』を発行し, 1990年11月1日の記念式典終了後, 東京・高田馬場のアルファにおいて, 日本の点字制定 100 周年記念パーティーを主催した。

なお, 日本点字委員会が前々から文部省・厚生省を通じて郵政省に申請していた日本の点字制定 100 周年の記念切手が1990年11月1日に発行された。

『日本点字表記法 1990年版』の頒布について

日本点字委員会では, 事務局の体制が変わったのを機に, 図書の頒布方法を変更いたしました。『日本点字表記法 1990年版』の点字版と墨字版とで注文先が違います。詳しくは次のページを御覧ください。また, 点字版の分冊頒布はいたしません。御面倒をかけますがよろしくお願いいたします。

頒 布 図 書 案 内

注文先・日本点字図書館用具部（消費税がかかります）	
1. 『日本点字表記法 1990年版』	（墨字版） 1000 円（送料 260 円）
2. 『点字数学記号解説』	（墨字版） 600 円（送料 210 円）
3. 『点字理科記号解説』	（墨字版） 600 円（送料 210 円）
（郵便振替 東京 5-44522）	

注文先・日本字図書館出版部（消費税がかかります）	
1. 『日本点字表記法 1990年版』	（点字版） 4500 円（送料無料）
（郵便振替 東京 6-100288）	

注文先・日本点字委員会事務局	
	（点 字 版） （墨 字 版）
1. 『点字数学記号解説』	1200 円（送料無料）
『点字数学記号解説別冊』	3800 円（送料無料）
2. 『点字理科記号解説』	1200 円（送料無料）
3. 『日本の点字 第 9 号』	300 円（送料無料） 300 円（送料 175 円）
	（コンピューター用点字 動詞「する」の切れ続き その他）
4. 『日本の点字 第 10 号』	400 円（送料無料） （品 切）
	（国語審議会への意見書 数を含む語の表記 その他）
5. 『日本の点字 第 11 号』	400 円（送料無料） 400 円（送料 210 円）
	（現代かなづかいの問題点とその展望 点字関係文献目録 その他）
6. 『日本の点字 第 12 号』	400 円（送料無料） 400 円（送料 210 円）
	（外来語及び外来語を含む複合語の切れ続きについて その他）
7. 『日本の点字 第 13 号』	500 円（送料無料） 500 円（送料 210 円）
	（複合語の構成と分かち書きの問題 国語審議会への要望書 その他）
8. 『日本の点字 第 14 号』	500 円（送料無料） 500 円（送料 210 円）
	（「改定現代仮名遣い」原文 点字表記に関する調査報告 その他）
9. 『日本の点字 第 15 号』	500 円（送料無料） 500 円（送料 175 円）
	（『日本点字表記法 1990年版』の概要 その他）
10. 『日本の点字 第 16 号』	500 円（送料無料） 500 円（送料 175 円）
	（「点字が開いた社会参加への道」「点字と情報機器」その他）

墨字版の送料は冊数が多くなれば割安になりますのでお問い合わせください。

〒169 東京都新宿区高田馬場1丁目23番4号 電話 東京 03(3209)0241 番
日本点字図書館内 日本点字委員会事務局 （郵便振替 東京 0-42820）